

秋田県 高P連会報



No.120

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社



(第1回合同委員会)

「さんフェア秋田2017」へ

秋田県高等学校PTA連合会

会長 石嶋 勝比古



秋田県高等学校PTA連合会、さらには『(一社)全国高等学校PTA連合会』を卓越した統率力で牽引下さいました佐野元彦前会長が、これまでの功績に全国表彰を受け、惜しまれながらの退任となりました。公私ともに大変お忙しい立場でありながら全国を飛び回り、高校教育に粉骨砕身ご尽力されましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、“産業交響曲(シンフォニー)～轟け!秋田の大地から～”をキャッチフレーズに第27回全国産業教育フェア秋田大会「さんフェア秋田2017」が、平成29年10月21日(土)～22日(日)の期間、秋田市を会場に開催されます。

全国の専門高校等で学ぶ生徒の学習成果を総合的に発表する全国産業教育フェアは、専門高校等の生徒の学習意欲や産業界、教育界、国民一般への専門高校等の魅力的な

教育内容について理解・関心を高めるとともに、新たな産業教育のあり方を探り、新しい時代に即した専門高校等における産業教育の活性化を図り、その振興に資することを目的とする事業です。

この大会には分野ごとに10部会あり、秋田県からは9部会に41校が参加予定です。会場では、作品展示、研究発表のほか、ファッションショー、高校生力フェ、キッズビジネスタウン、AKISHOP等が行われます。また、特別企画として秋田ならではの「全国高校生種苗交換会」を実施します。競技大会等においては、おなじみの「ロボット競技大会」を始め、各種コンテスト(フラワーアレンジメント、介護技術、ツアープランニング、ファッションデザイン、AIプログラミング)が行われ、日頃の学習成果を披露し熱い戦いが繰り広げられます。

全国から約300校、来場者数延べ10万人を超える大規模な催しとなっています。

後援組織として秋田県高P連もバックアップしておりますし、本県での開催はまたとない機会でありますので、一人でも多くの方々が会場へお運びいただき、是非生徒の学習成果をご覧いただくと共に励ましをいただければ幸いです。

秋田県高等学校 PTA連合会

平成29年度 定時総会

新会長に 石嶋勝比古氏



議長 児玉政明氏（花輪） 副議長 舘岡正人氏（聖霊短付）



退任役員 ありがとうございました



新任役員 よろしくお願ひします

平成29年度定時総会は、5月26日（金）ホテルメトロポリタン秋田にて、各校新旧役員をはじめ担当教員合わせて176名が参加して行われました。

来賓の沢屋隆世様（県教育庁生涯学習課長）と安田浩幸様（県高等学校長協会会長・秋田高校長）からのご祝辞に続き、PTA活動に貢献された114名の皆様を代表して富谷俊一様（湯沢翔北高前会長）に感謝状が贈呈されました。平成28年度広報紙コンクール表彰も行われ、最優秀賞受賞の横手清陵学院高校PTAを含め15校の栄誉を讃えました。受賞された皆様を代表して、武田暮美様（五城目高校前会長）が感謝の言葉を述べられました。

児玉政明花輪高PTA会長、舘岡正人聖霊短大付PTA会長を議長団に選出して進められた議事は、会務報告や決算報告、事業計画案、予算案などが承認されました。また、役員選出では、5年間にわたり秋田県高P連を牽引していただいた佐野元彦氏から石嶋勝比古能代工PTA会長にバトンが引き渡されました。佐野前会長からは、「ICTやAIの発達などで社会が大きく変わりゆく中、私たちはどのように生き、どのような役割を果たしていくのか。学校、家庭、地域社会が連携して、子ども達を自立したひとりの人間として社会に送り出すことが、ますます大事になっていく。『石嶋丸』が各学校PTA活動の礎のもとに、素晴らしい航海を繰り広げていくことを期待する」と熱きエールが送られました。

調査広報副委員長 嵯峨あつ子（秋田明徳館）



感謝状受賞 代表謝辞

五城目高等学校
前PTA会長 武田 暮美



『感謝をこめて』

成績優秀であるとか、部活動で活躍しているお子さんを持つ保護者が、PTAの役員をやるものだ、とずっと思っていました。私には3人の子供がおります。長男が病気の為に勉強が遅れてしまい、なかなか学校へ行けず、先生や学校に助けて貰いたい一心でPTAの役員になりました。3人の子供は2つの高校にお世話になりましたが、はじめて高P連の定時総会に出席した時、教育庁の皆様や各高校の先生達、そうそうたる役員の皆様を前に、会長の陰に隠れるように参加していたのを覚えております。回数を重ねるうちに各単Pの活動状況を知り、地域に根付いた活動をしている高校が沢山あることを学びました。

地域を超えて、他校とのPTA交流を実現する事も出来ました。伝統を深く重んじ大切にされている高校の行事に、参加させて頂きました。

学校内でも高P連でも、私は皆さんに沢山の学びを受けました。高P連を一つの学校とするならば、私は一人の生徒であり、本日このような臆（はなむけ）を頂き卒業します。先日、末の娘が高校を卒業しましたので、子供達と一緒にこれからの秋田県の地域の問題を考え、少子高齢化・雇用の問題、諸事に対して真摯な気持ちで受け止め、秋田県の「行動人」となれますように精進して参ります。

在校PTAの皆さんは、「我が子がかわいい!」という気持ちをPTA会員全体のシンボルとして、学校と地域をつなぐ強靱な砦となってパワフルに活動して頂きたいと思います。秋田県高等学校PTA連合会の益々の発展をご祈念し、感謝のご挨拶と致します。

第1回合同委員会開催

平成29年6月10日(土) 秋田市:大町ビル



定時総会で今年度の活動方針や事業計画が承認されたことを受け、各委員会活動が本格的に始まりました。第1回合同委員会では、昨年度の活動を踏まえつつも、前例踏襲となることなく、短期的な取り組みや中期展望をもつての活動など、様々な意見を交換することができました。各校PTA会長の思いや熱気といったものが会場に充満しました。

各委員会とも、それぞれの学校PTA活動の充実につながることを心がけ取り組んでいきますので、よろしくお願いします。次は各委員長からのメッセージです。

総務委員会

総務委員長 渡部 羊三(秋田南)



本年度2年目の総務委員長を仰せつかりました秋田南高校PTAの渡部です。どうぞよろしくお願いいたします。6月10日に第1回の総務委員会を開催いたしました。本年度総務委員会では秋田県高P連の活動を円滑に行うための総務活動とともに、昨年に引き続き制服のリユース活動の調査研究、18歳選挙権の教育に関する研究、そして今年度新たに郷土愛醸成教育についての調査研究を行います。他の委員会の担当事業以外の課題について、積極的に取り上げ発信してまいりたいと思います。本年も皆様のご協力とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

健全育成委員会

健全育成委員長 川口 広美(小坂)



健全育成委員会では、昨年に引き続き「登校時一声運動、マナーアップ運動」を推進していきます。各学校での活動に加え、近隣の高校や地域と連携した取り組みに広がっていくことを期待しています。各地区にお配りした県高P連作成の横断幕も、適宜活用していただければ幸いです。

また、昨今インターネットの発達、スマートフォンの普及などにより、子供達の人間関係が薄れてきています。そこで人間関係の回復・自立した社会人を育てる活動ができればとも思っています。ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

進路対策委員会

進路対策委員長 高久 臣平(湯沢)



首都圏を中心としたバブル景気を上回る空前の売り手市場の今日、進学や就職により秋田県の若年層の流出は益々加速していきます。しかし、地元に残りたい、県外へ出て何れは地元に戻ってきたいと思う高校生が増えてきております。高校教育の中で、自己実現の価値観を考えられる環境をつくり、「地元で幸せに暮らす」という豊かさを選択肢の一つにできる高校生を育てていくためには、保護者、学校、行政等が共通認識を持って取り組むことが大切だと考えます。子ども達の未来と本県の未来のために皆さんで力を合わせて頑張ってください。

調査広報委員会

調査広報委員長 斉藤 昭二(秋田中央)



今年度、調査広報委員長を務めさせて頂くことになりました。

これまで、先輩の皆様が築いてくださったことを大事に引き継ぎながら、新しいことも取り入れ、会員の輪を広げられるよう進めていきたいと思っています。

調査広報委員会の活動メインは、年2回の「秋田県高P連会報」発行と「広報紙コンクール」及び「広報紙づくり研修会」の実施です。高等学校PTA連合会からの情報をお届けすると共に各校の広報紙づくりに少しでもお手伝いできればと思っています。1年間、どうぞ宜しくお願い致します。

母親委員会

母親委員長 山信田 勢津子(横手)



母親会員交流会は、全県から高校生をもつ母親が集い、家庭や地域の教育力を高めるための母親の役割と、PTA活動のあり方を話し合うという趣旨のもと継続され、今年30回目を迎えます。今年度は「ありのままの自分を好きになろう～心と体のストレッチ～」をテーマに、共に学び合い、語り合いながら充実した時間を共有していきたいと思っています。

また30回目の節目の事業として、記念誌の発行を予定しています。今後も母親会員交流会を通して、母親としての士気を高め、家庭教育の確立につなげていきたいと思っています。



総務委員会



健全育成委員会



進路対策委員会



調査広報委員会



母親委員会

平成29年度 秋田県高等学校PTA連合会

役員一覧

役職	学校名	氏名
会長	能代工業	石嶋 勝比古
	小坂	川口 広美
	秋田南	渡部 羊三
	秋田中央	斉藤 昭二
	湯沢	高久 臣平
副会長	横手	○ 山信田 勢津子
	秋田	* 安田 浩幸
	大館国際情報学院	中嶋 友巳
監事	五城目	猿田 弘巳
	大曲農業	佐々木 明
	小坂	服部 千秋
理事	大館鳳鳴	桑名 秀明
	秋田北鷹	成田 淳子
	大館鳳鳴	* 立石 隆博
	二ツ井	田中 洋一
	能代西	小澤 澄人
	能代工業	* 山田 浩充
	秋田西	鈴木 壮二
	金足農業	相澤 重範

役職	学校名	氏名
理事	新屋	安田 喜代治
	秋田商業	石井 明
	和洋女子	塩田 清方
	秋田北	* 伊藤 雅和
	由利	佐藤 吉則
	由利工業	佐藤 繁
	仁賀保	金子 英紀
	本荘	* 今井 智幸
	大曲農業	谷口 彰
	大曲	斎藤 浩英
	大曲工業	鈴木 久
	大曲農業	* 伊東 金一
	横手清陵学院	高安 秀人
	雄物川	柴田 俊哉
	横手	* 佐々木 均
	羽後	大日向 一広
	雄勝	小野 垣昭治
	能代西	○ 金平 江理子
	秋田中央	○ 川村 真奈美

*校長協会代表 ○母親委員会代表

第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会

「描け ドリームマップ」

～世界への架け橋を郷土から～

平成29年7月7日(金) 盛岡市民文化ホール

全国大会を平成27年に開催した岩手県高P連は、今回の東北大会参加者が少なくなるのではと心配していたそうです。その東北地区高P連盛岡大会が、1,500人を超えるたくさんの参加者の中、平成29年7月7日(金)盛岡市民文化ホールで開催されました。

開会式では、渡辺正和大会会長が「先行き不透明な未来の子ども達が、夢を持って生きてゆくこと。大震災を経て子ども達の郷土を愛する気持ちが大きくなっている今こそ地域の力を活かし、子ども達の夢を持ってもらう事が大事である」と挨拶。九州北部の記録的な集中豪雨の中、大分県から駆けつけてくれた全国高P連木戸浩久専務理事の挨拶が続きます。「幸せとは何か物を得ることではなく、気づくことである。当たり前にも思われていることが、実は奇跡的なことであつたり、いろいろな人々のお陰であることを実感する。ときに自然が猛威をふるうこともあるが、今この場にいることに感謝する」とのお話は心に染みしました。

これまでPTAの諸活動でご功績のあつた皆様に感謝状が贈呈。受賞者を代表して佐野元彦秋田県高P連前会長

が、「PTAの活動を通して様々な気づきや学びがあつた。このたび一つの区切りとなるが、これまで得たことをそれぞれの地域社会で還元していく」と謝辞を述べられました。

大会メインである各県からの事例発表では、自校PTA活動の参考になることや保護者として学ぶことが多くありました。本県からは秋田北鷹高校成田淳子PTA会長が、「翔べ若鷹よ、故郷から未来へ～ふるさと教育から見るPTA活動～」と題して発表されました。

大会運営に当たっていた岩手県高P連の皆さんのお心遣いと共に、岩手県内の高校生による発表も印象的でした。気持ちが温くなりました。

前日の情報交換会を含め、多くの方々から、大会に参加したからこそ元気をいただきました。テーマである「郷土から世界へ、現代から未来へ、羽ばたく子どもたちを応援するPTA」に基づく発表のあれこれを思い返しながら帰路につきました。

調査広報副委員長 嵯峨 あつ子(秋田明徳館)



花巻農高 鹿踊り部



盛岡四高 音楽部



受賞の佐野前会長



受賞者の皆さん

東北高P連表彰

感謝状

秋田高校 …………… 佐野 元彦 氏
秋田北高校 …………… 木村 昌永 氏
仁賀保高校 …………… 関 守 氏

表彰状

小坂高校 …………… 高橋 俊治 氏
能代松陽高校 …………… 佐藤 幸樹 氏
五城目高校 …………… 武田 暮美 氏
矢島高校 …………… 庄司 嘉政 氏
平成高校 …………… 吉田 正光 氏
湯沢翔北高校 …………… 富谷 俊一 氏
ゆり支援学校 …………… 古池 正子 氏

平成28年度東北地区高P連広報紙コンクール

優秀賞

秋田公立美大附属高等学院

奨励賞

本荘高校
横手清陵学院高校



東北地区高P連盛岡大会の 事例発表を終えて

秋田北鷹高等学校 PTA会長 成田 淳子



『描け ドリームマップ』～世界への架け橋を郷土から～をテーマに、本校のPTA活動事例を発表する貴重な機会を頂きました。テーマは本校生徒の夢に向かう意志と活躍そのものに合致し、迷うことなく原稿作成できました。その一方で発表までの間はそこにおけるPTAの在り方を深く考えさせられ、県代表者として発表した事でPTA活動の必要性を再確認すると共に前進する勇気と自信を頂きました。今後の活動に活かして参ります。校長先生をはじめ担当の先生、そして応援下さった秋田県高P連の皆様にご心より感謝しております。

発表要旨

翔べ、若鷹よ 故郷から未来へ ～ふるさと教育から見るPTA活動～

1 はじめに

本校は秋田県の北部中央の北秋田市に立地し、平成23年4月、北秋田市内の4校が統合し、所在の北秋田市鷹巣と、北の空高く飛ぶ鷹をイメージし、『秋田北鷹高校』として開校しました。普通科特別進学コース1クラス、普通科探求コース3クラス、そして生物資源科、緑地環境科など農林業専門コースを併せ持ち、今年7年目を歩んでいます。

子ども達を取り巻く環境の変化が著しい中、子供たちの進学から就職まで幅広い進路に対応し、多種多様な学びに適應しながら、現代を生きる知識と未来を生き抜く力を育む授業に取り組んでいます。

すでに全国へ、世界へと活躍の場を広め、やがて社会を担う子ども達のため、私達PTAは地域コミュニティの力を借りて子供たちの未来を応援してゆく責務があると考えます。

人口減少は地域の活力に直結する大きな問題ですが、そんな中であって、本校生徒の活躍や地域との関わりはその折々で感動を巻き起こし、未来に向けて期待と希望をもたらしていると自負しています。

2 地域と連携した学校行事

学校祭前日に街を練り歩く仮装行列では時代風刺や問題提起を全身でパフォーマンスし、街中の見物客に高校生目に映る今を投げかけています。また、市商工会と共催して商店街を歩行者天国にして大綱引き大会を行っています。街の人の大きな声援で商店街に活気の戻る1日です。

3 本校の特色ある授業の取り組み

平成25年度から文部科学省からSSHの指定を受け、5年目を迎えています。化学クラブの生徒達は自主制作したモデルロケットの打ち上げ全国大会で27年に優勝し翌28年に英国での世界大会に出場して国際舞台で活躍する機会に恵まれました。生物資源科の取り組みで研究

を重ね特産品の比内地鶏の雄の去勢に成功し「北鷹ケイポン」としてイベント等で販売し好評です。家庭科クラブが開発した「しし唐カレー」のパウチは商品化され、多彩なレシピは地元JAの広報誌に毎月掲載されています。

4 本校の部活動

スキー、フェンシング、ソフトテニス、相撲、かるた部も全国大会の常連です。世界大会出場選手もおります。昨年度は陸上部女子が駅伝全国大会に初出場し、地域を沸せました。後援会組織の中で教育振興会と共に大会1か月前に「応援する会」を立ち上げ、募金活動では地域を奔走して同部を都大路へと送り出しました。

5 本校における私達PTAの活動

1つは学校祭での餅つきと提供です。会員と教職員が正面玄関でついた餅は来場者に無償で配り、PTAのおもてなしと位置付けられています。2つ目は登校時の「あいさつまナーアップ運動」ですが、年2回実施しております。地域の皆さんへの挨拶を促すだけでなく、子供たちの整容や印象を含めたマナーの向上には大切な活動です。

6 PTAの課題と展望

開校当初から本校が掲げる「県北に活力を与え県北の核となる学校を目指す」は地域が強く望む姿でもあり、その実現には地域との連携だけでなく、確かな学力の向上、進路実現によって、次世代を担う人間造りが大切であることをPTAも再認識する必要があります。

私たちの地域ではよく本校生徒を若鷹になぞらえます。巣立とうとする若鷹の、地域や国内外の発展に役立ちたいと思う気持ちが自己を意識し、自らの目標に向かう時、ゆるぎない軸となり成長する力となると考えております。

その時、PTAは地域コミュニティと協働して若鷹を支えてゆくことが出来れば、将来『故郷、北秋田は一番』という意識に繋がると信じております。

学 校 紹 介

2016ユネスコ無形文化遺産登録

「山・鉾・屋台行事」とわが校

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は、「山・鉾・屋台行事」を無形文化遺産に「花輪祭の屋台行事」「土崎神明社祭の曳山行事」「角館祭りのやま行事」をはじめ「京都祇園祭の山鉾行事」など東北から九州まで18府県の33行事を登録しました。

それぞれの祭りは、山車の引き回しを特徴とします。住民が準備や練習に取り組んでおり、地域の絆を強めています。今回、本県の登録された3行事の地域の高校をご紹介します。

地域で教育できる街を目指して

花輪高校PTA会長 児玉 政明



昨年11月30日、ユネスコ無形文化遺産に「花輪祭の屋台行事」を含む「山・鉾・屋台行事」が登録され、本市では「大日堂舞楽」に次いで二件目の登録となり喜ばしいことと思います。

本校生徒は特に「花輪ばやし」へ積極的に参加し、世代の異なる方々とコミュニケーションをとりながら、地域貢献、伝統継承をしています。地域の方々は技術を伝えつつ、人との関わり方やモラルを教えます。学校は代休日を設けるなど祭への配慮等、地域行事へ積極的な参加を促しています。また、運営者側も事ある毎に学校へ丁寧な説明がなされ、密な関係を保っています。

その結果、生徒たちは、「花輪ばやし」に関わらず他の事業・行事でも地元に着実に学校生活を送ることができています。これからも生徒達を地域全体で教育できる街でありたいと期待しております。

土崎港曳山まつりと中央高校

秋田中央高校PTA会長 斉藤 昭二



校名入り法被を着て



秋田中央高校は大正9年土崎町立実科高等女学校として設立されました。設立時の校名に「土崎」とあるように、土崎の地に校舎を構え、今年度は新校舎が竣工し、平成32年には創立100周年を迎えます。

地元、土崎神明社の例祭である曳山行事は、「土崎港曳山まつり」の愛称で親しまれ、毎年7月20、21日に、20台ほどの曳山がお囃子とともに各町内を練り歩き、神明社に奉納されます。この両日は夜店もたくさん出ることもあり、秋田市内の高校生はもちろんのこと、大勢の見物客で賑わいます。伝統と格式のある祭りであり、平成9年には国の重要無形文化財に指定され、28年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

本校では、地元町内の生徒に積極的に祭りへの参加を促しています。また、地元ではないが祭りに参加したいという生徒に校名入りの法被を用意し、校舎が隣接する寺内幕洗川二区町内会等をお願いして、祭りに加えていただくこともありました。

これからも土崎に100年続く学校として、祭りをはじめとして地域と深く関わっていきたいと思います。

「伝統の継承」

角館高校PTA会長 柏谷 真一



飾山囃子部OGハレの舞台

昨年11月30日に、「角館祭りのやま行事」などの秋田県内三行事を含む、全国33の山・鉾・屋台行事がユネスコ無形文化遺産に登録となりました。光栄なことです。

2校が統合した角館高等学校は、統合前からそれぞれの学校に、角館のお祭りに無くてはならない飾山囃子(おやまばやし)の部活動がありました。現在は、飾山囃子部として、昨年度、広島県で開催された全国高等学校総合文化祭にも出場しました。

仙北市角館町に学校はあるものの、部員は他の地域出身も多く、お囃子を子どもの頃から聴き慣れていない、お囃子のリズムを体に覚えさせることからのスタートです。地元の囃子方や、卒業した先輩方からの、ご指導をいただきながら稽古を重ねています。

さまざまなイベントにも出演させていただき、本番のお祭りでは、ハレの場である曳山で披露するという機会もいただいています。

角館という歴史ある地域と共に伝承されてきた、伝統あるお祭りを継承して行く一助となるよう、地域にサポートしてもらいながら、地域と共に盛り上げて行ければと思います。

周年学校

創立40周年 仁賀保高等学校



PTA会長 金子 英紀



仁賀保高校は、昭和52年に地域の強い要望によって開校しました。部活動では、昭和57年に吹奏楽部と放送部、昭和61年には山岳部と、創立10年以内で、運動部・文化部の両方で全国最高賞を受賞するという快挙を達成しています。

平成15年には、全国で19校しかない情報の専門学科である「情報メディア科」が開設され、情報のスペシャリストを育成しています。

近年は地域貢献活動に力を入れ、情報メディア科の授業で作ったポスターや動画は、地域活性化の一翼を担っています。

また、Benkyo & Volunteer 同好会が発足し、防災訓練や地域の魅力を発見・発信する事業を行っています。地域との協働を大切に、ふるさとを支える役割を果たそうとがんばっています。

これからの行事ご案内

第30回母親会員交流会

- 期 日 9月13日(水)
 会 場 秋田県生涯学習センター
 研究テーマ 「きびしさのなかに愛を やさしさのなかに節度を」
 内 容 (1)講演 演題「ありのままの自分を好きになる！
 ～心と身体のキレイを創るセルフメンテナンス～
 講師 (一社)セルフアドヴァンス協会
 代表理事 水科 江利子氏
 (2)グループ別討議
 (3)その他



グループ別討議

昨年度の様子

トーク&ライブ
板橋かずゆき氏

地区交流会

県北地区交流会

- 期 日 10月5日(木)
 会 場 交流会
 鹿角市:鹿角市文化の杜交流館
 コモッセ
 情報交換会
 鹿角市:エスポワールかつの
 研究主題 「地元の魅力を発見し、地域創
 成に貢献できる高校生の育成
 をめざす」
 内 容 (1)講演(トークセッション)
 講師
 鹿角市移住コンシェルジェ
 木村 芳兼氏
 (株)ファストコム
 ニッポン手仕事図鑑編集長
 大牧 圭吾氏
 (2)PTA活動報告 (3)その他
 主 管 県高P連鹿角地区協議会
 /事務局校 花輪高校



昨年度の様子

中央地区交流会

- 期 日 10月27日(金)
 会 場 由利本荘市:ホテルアイリス
 研究主題 「地区と連携したキャリア教育
 充実のためのPTA活動の在り
 方」
 内 容 (1)講演
 講師
 秋田大学横手分校
 校長 根岸 均氏
 (2)意見交換
 (3)その他
 主 管 県高P連由利本荘・にかほ地
 区協議会
 /事務局校 由利高校



昨年度の様子

県南地区交流会

- 期 日 9月29日(金)
 会 場 大仙市:グランドパレス川端
 研究主題 「子どもたちが豊かな人生を送
 るために」
 内 容 (1)講演
 講師 (株)TMO大曲取締役
 (大曲商工会議所相談役)
 森田 克彦氏
 (2)分科会
 第1分科会「志望進路実現のた
 めに親がすべきこと」
 第2分科会「将来の生き方に結
 びつく家庭教育の在り方」
 第3分科会「地域社会に貢献で
 きる生徒の育成」
 (3)全体会 (4)その他
 主 管 県高P連大仙・仙北・美郷地区
 協議会/事務局校 大曲高校



昨年度の様子

「第27回全国産業教育フェア秋田大会」について

秋田県高P連では、県内の高校生や全国各地から参加する高校生の皆さんの活躍を全面的に応援しています。

- 1 期 日 平成29年10月21日(土)・22日(日)
 2 会 場 秋田県民会館、秋田県立体育館、秋田県立武道館、秋田県生涯学習センター
 CNAアリーナ★あきた(秋田市立体育館)、秋田市にぎわい交流館AU
 秋田拠点センターアルヴェ

3 主な開催内容

- (1)作品展示 (2)体験・実演コーナー (3)展示販売 (4)作品・研究発表 (5)意見・体験発表
 (6)スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会 (7)参加・交流イベント (8)ファッションショー
 (9)高校生カフェ (10)キッズビジネスタウン (11)AKISHOP (12)全国高校生種苗交換会 (13)白熱トーク
 (14)競技大会
 ①全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト ②全国高等学校ロボット競技大会
 ③全国高校生介護技術コンテスト ④全国高校生ツアープランニングコンテスト
 ⑤全国高校生ファッションデザインコンテスト ⑥全国高校生AIプログラミングコンテスト



平成28年度 高P連広報紙コンクール

会報119号でもお知らせしましたが、各学校PTAの広報活動の活性化や広報紙づくりのレベルアップを図ることを目的に広報紙コンクールを実施しています。平成28年度の審査会が、平成29年1月14日(土)県生涯学習センターにおいて行われ15校の応募がありました。

今回の審査は、外部審査委員の藤原謙氏(秋田魁新報社)と猪股悟氏(当時、生涯学習センター所長)、県高P連調査広報委員が当たり、各広報紙それぞれに込められた思いをじっくりと読ませていただきました。

コンクールが結果だけを競うのではなく、より良い広報紙づくりの一助になることを期待して、応募校には外部審査委員による具体的な講評をお伝えしております。ここでは、全体講評を掲載します。参考にしていただければ幸いです。

講評 「楽しみながら編集作業を」

秋田魁新報社事業局長代理 **藤原 謙**

(昨年度編集局制作センター長)



広報紙って何だろう。難しいようですが、簡単に考えてください。今、学校で起きていること、子供たちが学校で学んでいること、部活動の成績、将来を考える上で必要なことなど、さまざまな角度からの情報を掲載したものが広報紙です。広報紙コンクールの審査で各校の紙面を読ませていただきました。時間的制約がある中で、工夫を凝らして作ったものが数多くありました。それぞれの思いを「学校と家庭を結ぶ媒体」に載せて発行した関係者の熱意に敬意を表します。

広報紙は視点を変えれば、学校生活の一部を切り取った記録集です。卒業後、一枚の写真が、あるいは一言のメッセージが「あの瞬間」を思い出させてくれる貴重なものにもなります。プロのカメラマンでも記者でもないのに、うまく撮れない、書けないと思う必要はありません。伝えたいという思いがあればいいのではないのでしょうか。

必要なのはそれを手に取ってもらうということ、つまり見せ方です。写真サイズにメリハリをつけ、きれいに配置すればいいのです。幕の内弁当と同じで、バランスよく盛り付けすれば必ず手に取り、ページを開きます。

また、読者が今、何を読みたいのかをつかみ、それを形にすることが大切です。発行するタイミングによって、必要な情報は大きく変わります。これだけは読んでほしいテーマというがあれば、特集を組んでじっくり紹介すればいいのではないのでしょうか。

広報紙作りでは事前準備が大切です。あらかじめレイアウトが決まっていれば原稿量、掲載写真の枚数が決まります。素材がそろえば紙面は出来上がりです。年に何度か編集会議を開き、事前準備しておくとは作業はスムーズになります。

時には横組みする、あるいは写真だけで見せるなど、いつもとは違う紙面にチャレンジしてみましょう。作り手も楽しみながら編集作業をすることが、いい紙面につながります。読者も作り手も楽しく読める広報紙を今後も期待しています。

平成28年度 秋田県高P連広報紙 コンクール審査結果

(☆)全国大会静岡大会に出展

最優秀賞 横手清陵学院高等学校(☆)



優秀賞



本荘高等学校



秋田大附属高等学院(☆)

優良賞



天王みどり学園



ゆり支援学校
(外部審査員賞)



秋田和洋女子
高等学校

奨励賞



男鹿海洋高等学校



秋田高等学校



新屋高等学校



秋田明徳館高等学校



本荘高等学校定時課程



矢島高等学校



仁賀保高等学校



大曲農業高等学校太田分校



大曲高等学校

編集後記

会報120号発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様に心より御礼申し上げます。本号では、定時総会や東北大会などを中心とした内容をお届けします。少しでも様子が分かっているようにと心がけました。皆様へのエールになることを祈るばかりです。

編集委員が入れ替わり、新しい企画を検討しているところです。幅広い話題を織り交ぜ高P連の活動の様子をお伝えできればと思っています。皆様が本号を手にとられている時は、涼風至る季節になっている頃でしょう。多くの仲間と共に自然の足音を感じながら、楽しく有意義な生活をお送りください。

調査広報副委員長 高安 秀人(横手清陵学院)